1 導　入編

本製品や添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

特　長（→2ページ）.................................本製品の特長や添付（または別売品）のソフトウェア、および各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。

導入にあたって（→8ページ）.................................本製品をご利用されるシステムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。

お客様登録（→13ページ）.................................お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひ登録してください。

セットアップを始める前に（→14ページ）.................................セットアップの順序を説明します。お使いになるオペレーティングシステムや購入時の本体によってもセットアップの方法は異なります。

Windows Server 2003のセットアップ（→16ページ）...Windows Server 2003で運用する場合のシステムのセットアップの方法について説明しています。

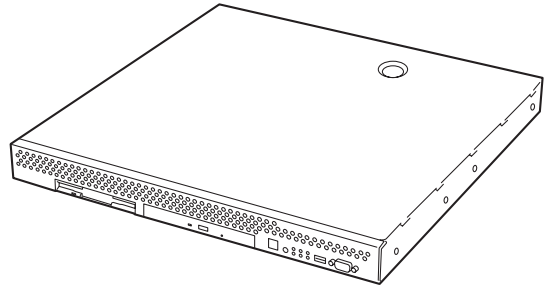
Windows 2000のセットアップ（→42ページ）.................Windows 2000で運用する場合のシステムのセットアップの方法について説明しています。

ONL-3108cN-110GR1a-000-01-0407

特　長

お買い求めになられた本製品の特長を次に示します。

高性能

- Intel® Pentium® 4 Processor（2AGHzまたは2.6GHz）搭載
- 高速100BASE-TX/10BASE-Tインタフェース（100Mbps/10Mbps対応）
- 高速ディスクアクセス

高信頼性

- メモリ監視機能（1ビットエラー訂正/2ビットエラー検出）
- メモリ縮退機能（障害を起こしたデバイスの論理的な切り離し）
- バスパリティエラー検出
- 温度検知
- 異常検知
- 内蔵ファン回転監視機能
- 内部電圧監視機能
- BIOSパスワード機能
- ディスクアレイ（オプションにてサポート）

管理機能

- ESMPROシリーズ
- MWA（Management Workstation Application）
- ディスクアレイユーティリティ

省スペース

- 高さ1U（約44mm）のラックマウント/卓上共用タイプ
- スリムCD-ROMドライブ/フロッピーディスクドライブ

保守機能

- オフライン保守ユーティリティ
- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能

省電力機能

スリープ機能

拡張性

- PCIバス（1スロット）
- 最大3GBの大容量メモリ
- LANポートを2ポート標準装備
- USB対応

すぐに使える

- Microsoft® Windows Server™ 2003 日本語版またはMicrosoft® Windows® 2000 日本語版インストール済み（ビルド・トゥ・オーダーの場合）

豊富な機能搭載

- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- POWERスイッチマスク
- ソフトウェアPower Off
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能
- コンソールレス機能

自己診断機能

- Power On Self-Test（POST）
- システム診断ユーティリティ

便利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER（システムセットアップユーティリティ）
- ExpressPicnic（セットアップパラメータFD作成ユーティリティ）
- SETUP（BIOSセットアップユーティリティ）

本装置は、高い信頼性を確保するためのさまざまな機能を提供しています。
本体に添付されているESMPROなどのソフトウェアが提供する監視機能との連携により、システムの障害を未然に防止、または早期に復旧することができます。
また、停電などの電源障害からサーバを守る無停電電源装置、万一のデータ損失に備えるためのバックアップ装置などといった各種オプション製品により、さらなる信頼性を確保することができます。
各機能はそれぞれ以下のハードウェア、およびソフトウェアにより実現しています。

管理分野	必要なハードウェア	必要なソフトウェア
サーバ管理	サーバ本体機能	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent MWA(Management Workstation Application)
ストレージ管理 ● ディスク管理 ● バックアップ管理	 ディスクミラーリングコントローラ* DAT/DLT/AITなど*	 ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent、FastCheck Windows標準バックアップツール ARCserve for Windows NT* BackupExec*、NetBackup*
電源管理	無停電電源装置(UPS)*	ESMPRO/UPSController* PowerChute *plus** (注) 無停電電源装置により、使用するソフトウェアが異なります。
ネットワーク管理	100BASE-TX接続ボードなど*	WebSAM/Netvisor*

* オプション製品。

サーバ管理

本装置はシステムボード上に標準でリソース監視チップを搭載しており、サーバに内蔵されている以下の各種リソースを監視します。これらのハードウェア機能と管理用ソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」が連携し、サーバの稼動状況などを監視するとともに万一の障害発生時にはただちに管理者へ通報します。
ESMPRO/ServerAgentをインストールした場合、データビューアの項目ごとの機能可否は次ページの表のとおりです。

機能名		可否	機能概要
ハードウェア		○	ハードウェアの物理的な情報の表示。
	メモリバンク	○	メモリの物理的な情報の表示。
	装置情報	○	装置固有の情報の表示。
	CPU	○	CPUの物理的な情報の表示。
システム		○	CPUの論理情報参照や負荷率の監視。 メモリの論理情報参照や状態監視。
I/Oデバイス		○	I/Oデバイス(フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポート、キーボード、マウス、ビデオ)の情報の参照。
システム環境		△	温度、ファン、電圧、電源、ドアなどを監視する機能。
	温度	○	筐体内部の温度監視。
	ファン	○	ファンの監視。
	電圧	○	筐体内部の電圧の監視。
	電源	○	電源ユニットの監視。
	ドア	X	Chassis Intrusion（筐体のカバー/ドアの開閉）の監視。
ソフトウェア		○	サービス、ドライバ、OSの情報の参照。
ネットワーク		○	ネットワーク(LAN)に関する情報参照やパケットの監視。
拡張バスデバイス		○	拡張バスデバイスの情報の参照。
BIOS		○	BIOSの情報の参照。
ローカルポーリング		○	エージェントが取得する任意のMIB項目の値の監視。
ストレージ		○	ハードディスクなどのストレージデバイスやコントローラの監視。
ファイルシステム		○	ファイルシステム構成の参照や使用率の監視など。
ディスクアレイ		○	LSI Logic Corporation社製ディスクアレイシステムの監視。
その他		○	Watch Dog TimerによるOSストールの監視。

○: サポート　△: 一部サポート　X: 未サポート

また、MWA（Management Workstation Application）により、サーバ上でオペレーティングシステムが稼動していない状態でのリモート操作/保守を管理PCから行ったり、リモートパワーオン機能により、ネットワーク上のPCからリモートで本体の電源をONにしたりすることができます。

ESMPRO/ServerManager、およびESMPRO/ServerAgent、MWA（Management Workstation Application）は、本体に標準添付されています。各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ストレージ管理

大容量のストレージデバイスを管理するために次の点について留意しておきましょう。

ディスク管理

ハードディスクの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながると言えます。オプションのディスクミラーリングコントローラを使用することにより、ディスクドライブをグループ化して冗長性を高め、データの損失を防ぐことができます。

ディスクミラーリングコントローラは、本体に内蔵のハードディスク(IDE)をディスクアレイにするためのPCIボードです。

ディスクアレイのRAID0、1の各RAIDレベルをサポートしています。

ディスクミラーリングコントローラの制御や各種設定はコントローラに搭載されているコンフィグレーションユーティリティ「FastBuild」を使用します。詳しくは、ディスクミラーリングコントローラに添付の説明書を参照してください。

運用中の管理・保守はWindowsベースのユーティリティ「FastCheck」を使用します。使用方法については、「ソフトウェア編」またはオンラインドキュメントを参照してください。

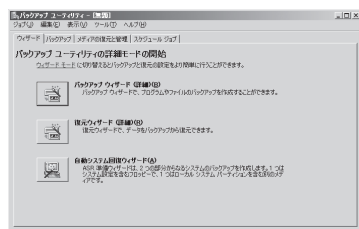
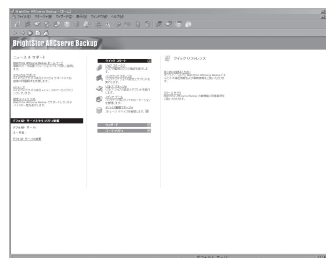
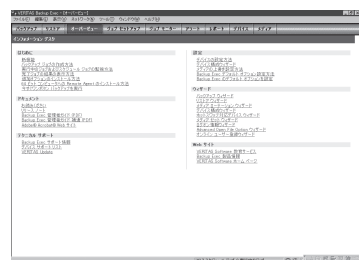
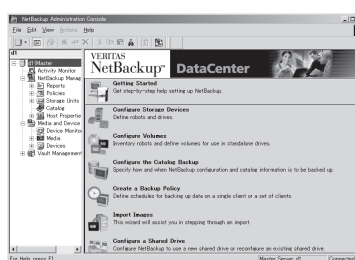
このソフトウェアは、ディスクミラーリングコントローラの管理・監視をするとともに、ESMPRO/ServerManagerやESMPRO/ServerAgentとの連携により、ディスクアレイの状況をトータルに監視し、障害の早期発見や予防措置を行い、ハードディスクの障害に対して迅速に対処することができます。

ディスクアレイの設定は、セットアップツール「シームレスセットアップ」でも設定できます。より詳細な設定をするときに、ボードのチップに搭載されている「FastBuild」を使用してください。

FastCheckやESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgent、は、本体に標準で添付されています。ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

バックアップ管理

定期的なバックアップは、不意のサーバのダウンに備える最も基本的な対応です。
DAT装置やDLT装置と各種ソフトウェアを使って定期的にバックアップをとってください。
容量や転送スピード、バックアップスケジュールの設定など、ご使用になる環境に合わせて利用してください。
バックアップデバイスと接続するためにはオプションのSCSIコントローラボードが必要です。

アプリケーション名	説明
NTBackup(OS標準)	Windows標準のバックアップツール。 単体バックアップ装置に単純なバックアップを行うときに使用。
ARCserve (コンピュータ・アソシエイツ社)	国内で最もポピュラーなPCサーバのバックアップツール。 スケジュール運用が可能で、集合バックアップ装置、DBオンラインバックアップなどに対応可能。
BackupExec(ベリタス社)	米国で最もポピュラーなPCサーバのバックアップツール。 NTBackupと同一テープフォーマットを使用。 スケジュール運用が可能で、集合バックアップ装置、DBオンラインバックアップなどに対応可能。
NetBackup(ベリタス社)	異種プラットフォーム環境で統合的な制御/管理を実現した、BackupExecの上位バックアップツール。基幹業務など大規模システムまで対応。オープンファイルバックアップ、Disaster Recoveryを標準サポート。DBオンラインバックアップなどに対応可能。

NTBackup

ARCserve

BackupExec

NetBackup

電源管理

商用電源のトラブルは、システムを停止させる大きな原因のひとつです。
停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。
無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源ユニットの寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュールなどによる本装置の自動・無人運転を実現することもできます。
本製品では、NEC社製多機能UPS(I-UPSPro)と、APC社製Smart-UPSの2種類の無停電電源装置を提供しており、それぞれESMPRO/UPSController、PowerChute *plus*で管理・制御します。

ネットワーク管理

ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentを使用することにより、本体に内蔵されているLANカードの障害や、回線の負荷率等を監視することができます。
また、別売のESMPRO/Netvisorを利用することにより、ネットワーク全体の管理を行うことができます。

導入にあたって

本装置を導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

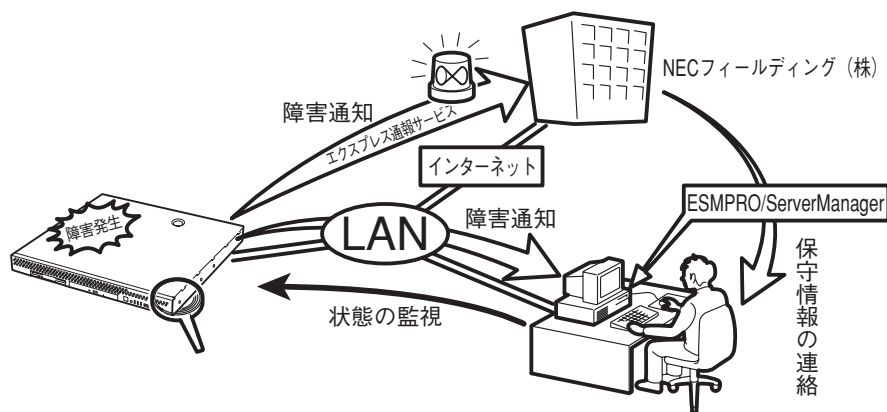
システム構築のポイント

実際にセットアップを始める前に、以下の点を考慮してシステムを構築してください。

運用方法の検討

「特長」での説明のとおり、本装置は運用管理・信頼性に関する多くのハードウェア機能を持ち、用途に応じてさまざまなソフトウェアが添付されています。
システムのライフサイクルの様々な局面において、「各ハードウェア機能および添付ソフトウェアのどれを使用して、どのような運用するか?」などを検討し、それに合わせて必要なハードウェアおよびソフトウェアのインストール/設定を行ってください。

稼動状況・障害の監視、および保守

本体に標準添付の「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」を利用することにより、リモートからサーバの稼動状況や障害の監視を行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。
運用の際は、「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」を利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。

なお、本装置に障害が発生した際に、NECフィールディング(株)がアラート通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。
「エクスプレス通報サービス」を利用することもご検討ください。

システムの構築・運用にあたっての留意点

システムを構築・運用する前に、次の点について確認してください。

出荷時の状態を確認しましょう

本製品を導入する前に、出荷時の状態を確認しておいてください。

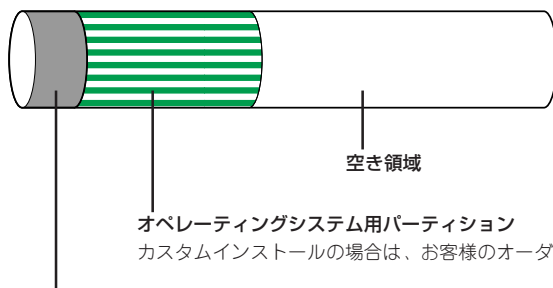
● **システムやオペレーティングシステムのインストール状態について**

注文により出荷時の状態に次の2種類があります。

出荷時のモデル	説　明
カスタムインストール	ビルド・トゥ・オーダーにてWindows Server 2003またはWindows 2000インストールを指定された場合。
未インストール	ディスクレスモデルを購入され、ビルド・トゥ・オーダーによるOSのインストールを希望されなかった場合。

出荷時のオペレーティングシステムのインストール状態により、必要なセットアップ作業が異なります。14ページの説明に従ってセットアップを行ってください。

● **パーティション構成について**

本装置では、セットアップすると1台目のディスクの先頭に保守用の領域（保守用パーティション）が自動的に作成されます。

セットアップの手順を確認しましょう

システムを構築するにあたり、「セットアップ」は必要不可欠なポイントです。
セットアップを始める前にセットアップをどのような順序で進めるべきか十分に検討してください。
必要のない手順を含めたり、必要な手順を省いたりすると、システムの構築スケジュールを狂わせるばかりでなく、本装置が提供するシステム全体の安定した運用と機能を十分に発揮できなくなります。

1. 運用方針と障害対策の検討

ハードウェアが提供する機能や採用するオペレーティングシステムによって運用方針やセキュリティ、障害への対策方法が異なります。

「特長(2ページ)」に示す本装置が提供する機能を十分に利用したシステムを構築できるよう検討してください。

また、システムの構築にあたり、ご契約の保守サービス会社および弊社営業担当にご相談されることもひとつの手だてです。

2. ハードウェアのセットアップ

本体の電源をONにできるまでのセットアップを確実に行います。この後の「システムのセットアップ」を始めるために運用時と同じ状態にセットアップしてください。詳しくは、14ページに示す手順に従ってください。

ハードウェアのセットアップには、オプションの取り付けや設置、周辺機器の接続に加えて、内部的なパラメータのセットアップも含まれます。ご使用になる環境に合わせたパラメータの設定はオペレーティングシステムや管理用ソフトウェアと連携した機能を利用するために大切な手順のひとつです。

3. システムのセットアップ

オプションの取り付けやBIOSの設定といったハードウェアのセットアップが終わったら、ハードディスクのパーティションの設定やディスクアレイの設定、オペレーティングシステムや管理用ソフトウェアのインストールに進みます。

<初めてのセットアップの場合>

初めてのセットアップでは、お客様が注文の際に指定されたインストールの状態によってセットアップの方法が異なります。

「カスタムインストール」を指定して購入された場合は、本体の電源をONにすれば自動的にセットアップが始まります。セットアップの途中で表示される画面のメッセージに従って必要事項を入力していけばセットアップは完了します。

「未インストール」にて購入された場合は、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMが提供する自動セットアップユーティリティ「シームレスセットアップ」を使用します。シームレスセットアップでは、はじめにセットアップに必要な情報を選択・入力するだけであとの作業はシームレス(切れ目なく)で自動的に行われます。

<未インストールのセットアップ・再セットアップの場合>

シームレスセットアップを使用してください。煩雑な作業をシームレスセットアップが代わって行ってくれます。

本装置がサポートしているOSは次のとおりです。

- Microsoft® Windows Server™ 2003 Standard Edition 日本語版(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows® 2000 Server 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)

その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

「Windows Server 2003」または「Windows 2000」では、ディスクアレイの設定から管理用ソフトウェアのインストールまでの作業をシームレスセットアップが行います。

本装置固有のセットアップは(OSを除く)、シームレスセットアップが代わりに行ってくれます。セットアップでは、シームレスセットアップを利用することをお勧めします。

4. 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるよう障害処理のためのセットアップをしてください。Windows Server 2003またはWindows 2000に関しては、本書で説明しています。

5. 管理用ソフトウェアのインストールとセットアップ

出荷時にインストール済みの管理用ソフトウェアや、シームレスセットアップやマニュアルでインストールしたソフトウェアをお使いになる環境にあった状態にセットアップします。また、本装置と同じネットワーク上にある管理PCにインストールし、本装置を管理・監視できるソフトウェアもあります。併せてインストールしてください。なお、ご使用を開始する前に使用する環境にあわせた設定が必要にな場合があります。詳しくは「ソフトウェア編」をご覧ください。

各運用管理機能を利用するにあたって

本装置で障害監視などの運用管理を行うには、標準添付のESMPRO/ServerAgent、ESMPRO/ServerManager、または別売の同ソフトウェアが必要となります。この後で説明するセットアップ手順、またはソフトウェアの説明書(別売の場合)に従って各ソフトウェアのインストール、および必要な設定を行ってください。

各運用管理機能を利用する際には、以下の点にご注意ください。

サーバ管理機能を利用するにあたって

本体の各コンポーネント(CPU/メモリ/ディスク)の使用状況の監視やオペレーティングシステムのストール監視など、監視項目によってはESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentでしきい値などの設定が必要になります。詳細は、各ソフトウェアに関する説明やオンラインヘルプなどを参照してください。

ストレージ管理機能を利用するにあたって

- **ディスクミラーリングコントローラを使用する場合**

  ESMPRO/ServerAgentに加えてFastCheckをインストールしておく必要があります。「ソフトウェア編」の「FastCheck」の説明に従ってインストールやセットアップをしてください。

- **バックアップファイルシステムを使用する場合**

  DAT装置を使用する場合は、クリーニングテープを使って定期的にヘッドを清掃するよう心がけてください。ヘッドの汚れはデータの読み書きエラーの原因となり、データを正しくバックアップ/リストアできなくなります。テープドライブやテープの状態を監視する「テープ監視ツール」を使用することをお勧めします。テープ監視ツールについては「ソフトウェア編」を参照してください。

電源管理機能を利用するにあたって

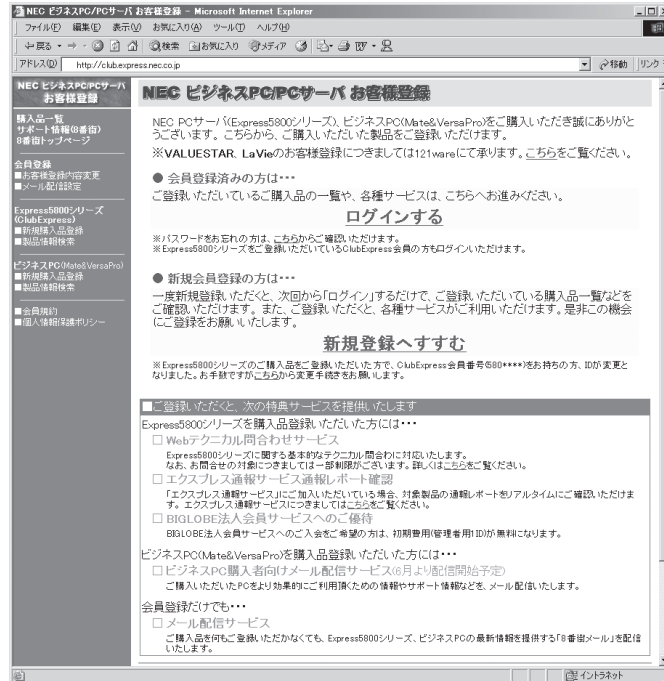
- 無停電電源装置（UPS）を利用するには、専用の制御用ソフトウェア（ESMPRO/UPSController、PowerChute *plus*）または、オペレーティングシステム標準のUPSサービスのセットアップが必要です。

- 無停電電源装置（UPS）を利用する場合、自動運転や停電回復時のサーバの自動起動などを行うにはBIOSの設定が必要となる場合があります。「システムBIOSのセットアップ（126ページ）」を参照して、「Server」メニューにある「AC LINK」の設定をご使用になる環境に合った設定に変更してください。

お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、またはClub Expressのインターネットホームページ

http://club.express.nec.co.jp/

にてご登録ください。

「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。ぜひ、ご覧ください。

セットアップを始める前に

セットアップの順序と参照するページを説明します。セットアップはハードウェアから始めます。

重要

ビルド・トゥ・オーダにてWindows Server 2003またはWindows 2000のインストールを指定した場合は、本体にWindowsのプロダクトキーが記載されたIDラベルが貼りつけられています。

OSのセットアップや再インストール時に必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう注意してください。もし剥がれたり汚れたりして見えなくなった場合はお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。あらかじめプロダクトキーをメモし、他の添付品といっしょにメモを保管されることをお勧めします。

ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

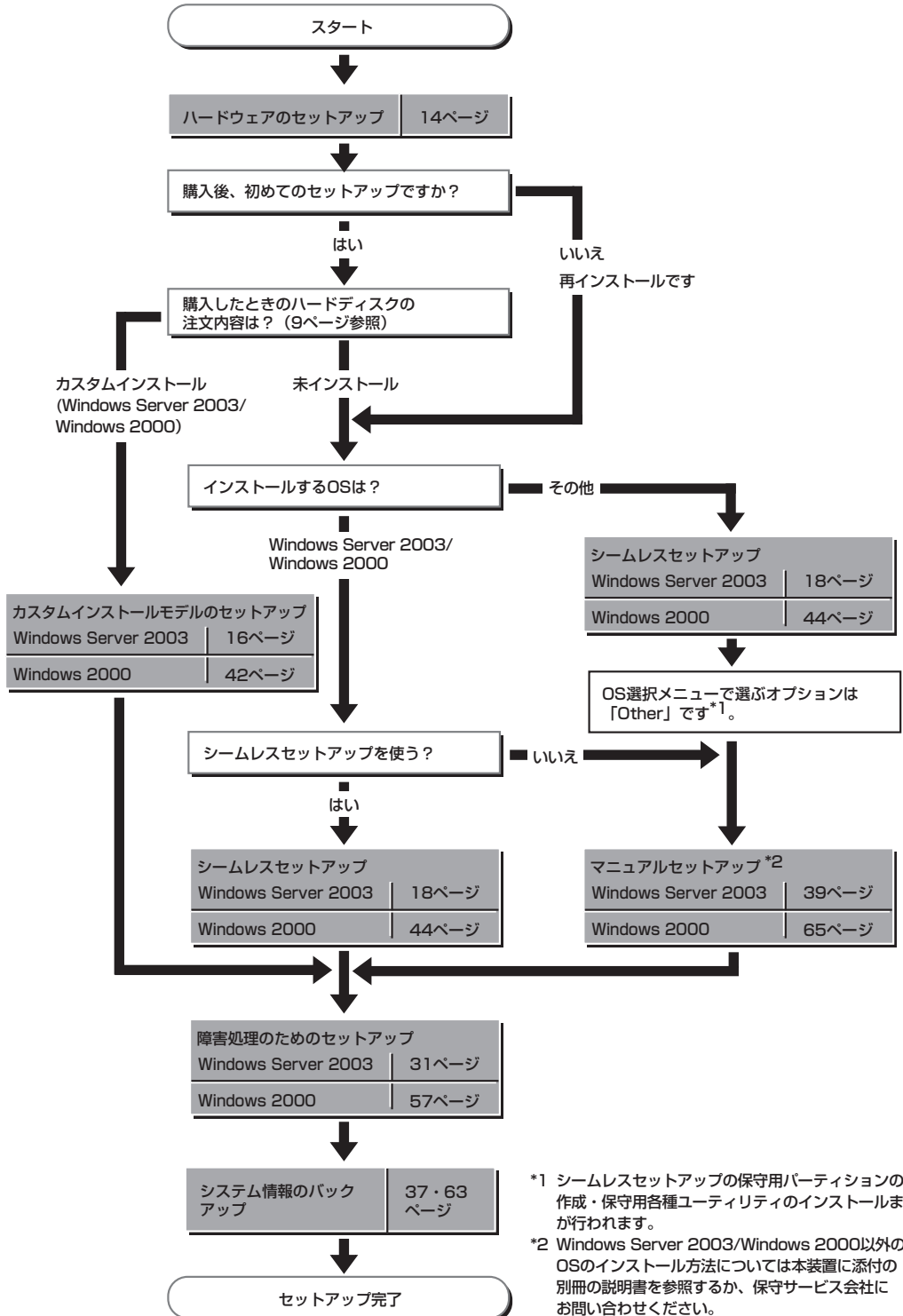
1. 別途購入したオプションを取り付ける（→101ページ）。
2. 卓上に設置する場合は、最も適した場所に設置する（→75ページ）。

   ラックに取り付ける場合は、本体の底面をしっかり持ってラックに取り付ける（→77ページ）。
3. ディスプレイ装置やマウス、キーボードなどの周辺装置を本体に接続する（→88ページ）。
4. ハードウェアの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

   128ページを参照してください。

BIOSのパラメータで時刻や日付が正しく設定されていることを必ず確認してください。

システムのセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了したら、お使いになるオペレーティングシステムに合わせて後述の説明を参照してください。再インストールの際にも参照してください。

*1 シームレスセットアップの保守用パーティションの作成・保守用各種ユーティリティのインストールまでが行われます。

*2 Windows Server 2003/Windows 2000以外のOSのインストール方法については本装置に添付の別冊の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。

Windows Server 2003のセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了してから、Windows Server 2003やシステムのセットアップをします。再インストールの際にも参照してください。

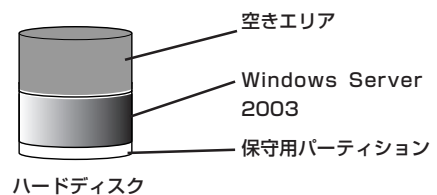
カスタムインストールモデルのセットアップ

「ビルド・トゥ・オーダー」にて「カスタムインストール」を指定して購入された本体のハードディスクは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、本装置が提供するソフトウェアがすべてインストールされています。

ここで説明する手順は、「カスタムインストール」を指定して購入された製品で初めて電源をONにするときのセットアップの方法について説明しています。再セットアップをする場合や、その他の出荷状態のセットアップをする場合は、「シームレスセットアップ」を参照してください。

セットアップをはじめる前に　- 購入時の状態について -

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本体のハードウェア構成(ハードディスクのパーティションサイズも含む)やハードディスクにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー(ビルド・トゥ・オーダー)によって異なります。
右図は、ハードディスクのパーティション構成について図解しています。

セットアップの手順

次の手順で本体を起動して、セットアップをします。

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにし、そのままWindowsを起動する。

   [Windows Server 2003セットアップ]画面が表示されます。

2. [次へ]をクリックする。

   [使用許諾契約]画面が表示されます。

3. [同意します]にチェックをして、[次へ]をクリックする。

   以降、使用者名などの設定画面が次々と表示されます。

4. 画面の指示に従って必要な設定をする。

   セットアップの終了を知らせる画面が表示されます。

5. ［完了］をクリックする。

   システムが再起動します。

6. 再起動後、システムにログオンする。

7. 27〜28ページの手順12と手順13を参照して、PROSetのインストールとネットワークドライバの詳細設定をする。

8. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、ドライバをインストールする。

9. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。

   インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

   - ESMPRO/ServerAgent
   - エクスプレス通報サービス*
   - FastCheck*

   上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

   重要

   カスタムセットアップで出荷された場合、インストールされているサービスパックのバージョンと、装置に添付されているサービスパックのバージョンが異なる場合があります。本装置に添付されているサービスパック以降のサービスパックを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

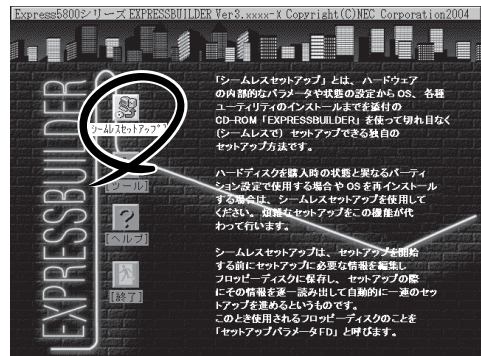
   ［8番街］　http://nec8.com/

10. 37ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でカスタムインストールで購入された製品での初めてのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「シームレスセットアップ」を使ってください。

シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってセットアップをします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS(Windows Server 2003)、各種ユーティリティのインストールまでを添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。ハードディスクを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。

シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップについては、38ページの「応用セットアップ」で説明しています。

- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

  シームレスセットアップは、この情報を基にしてすべてのセットアップを自動で行います。この間は、本体のそばにいて設定の状況を確認する必要はありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態にセットアップすることができます。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクをご利用ください。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。

  事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておくと、シームレスセットアップの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます。(セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正することもできます)。本装置の他にWindows 95/98/Me、Windows NT 3.51以降、Windows XP/2000またはWindows Server 2003で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします。

  ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、171ページで説明しています。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

本装置がサポートしているOSはMicrosoft® Windows Server™ 2003 Standard Edition日本語版(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)です。

その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

BIOSの設定について

Windows Server 2003をインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。126ページを参照して設定してください。

Windows Server 2003について

Windows Server 2003は、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。

重要

- **インストールを始める前にオプションの増設や本体のセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。**
- **弊社が提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。**
- **シームレスセットアップを完了した後に31ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。**

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイルシステムが正しく変換されない場合があります。ファイルシステムが正しく変換されなかった場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

ハードディスクの接続について

OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。また、論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」(40ページ)を参照してください。

導入編

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ

インストールに必要なサイズ	= 2900MB
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 12MB

重要

- **上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。**
- **1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズx 1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。**
- **搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズは「2048MB+12MB」以上です。**
- **その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするパーティションサイズを追加してください。**

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述の計算方法から

2900MB + (512MB × 1.5) + (512MB + 12MB) = 4192MB

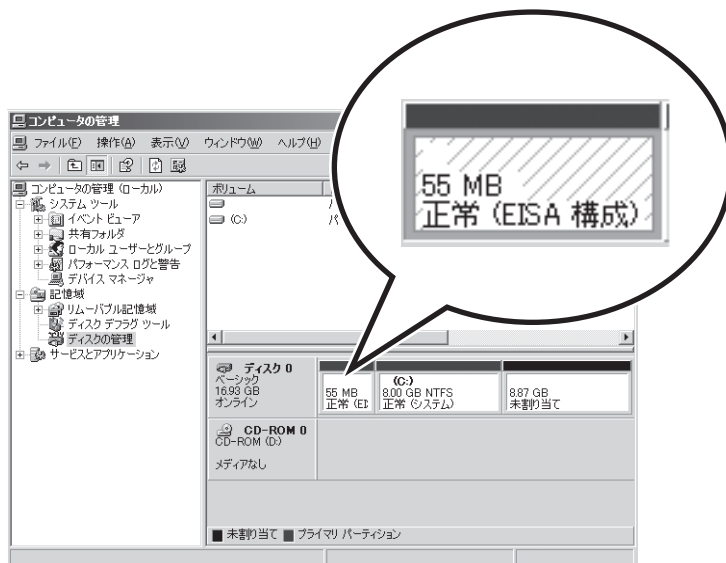
となります。

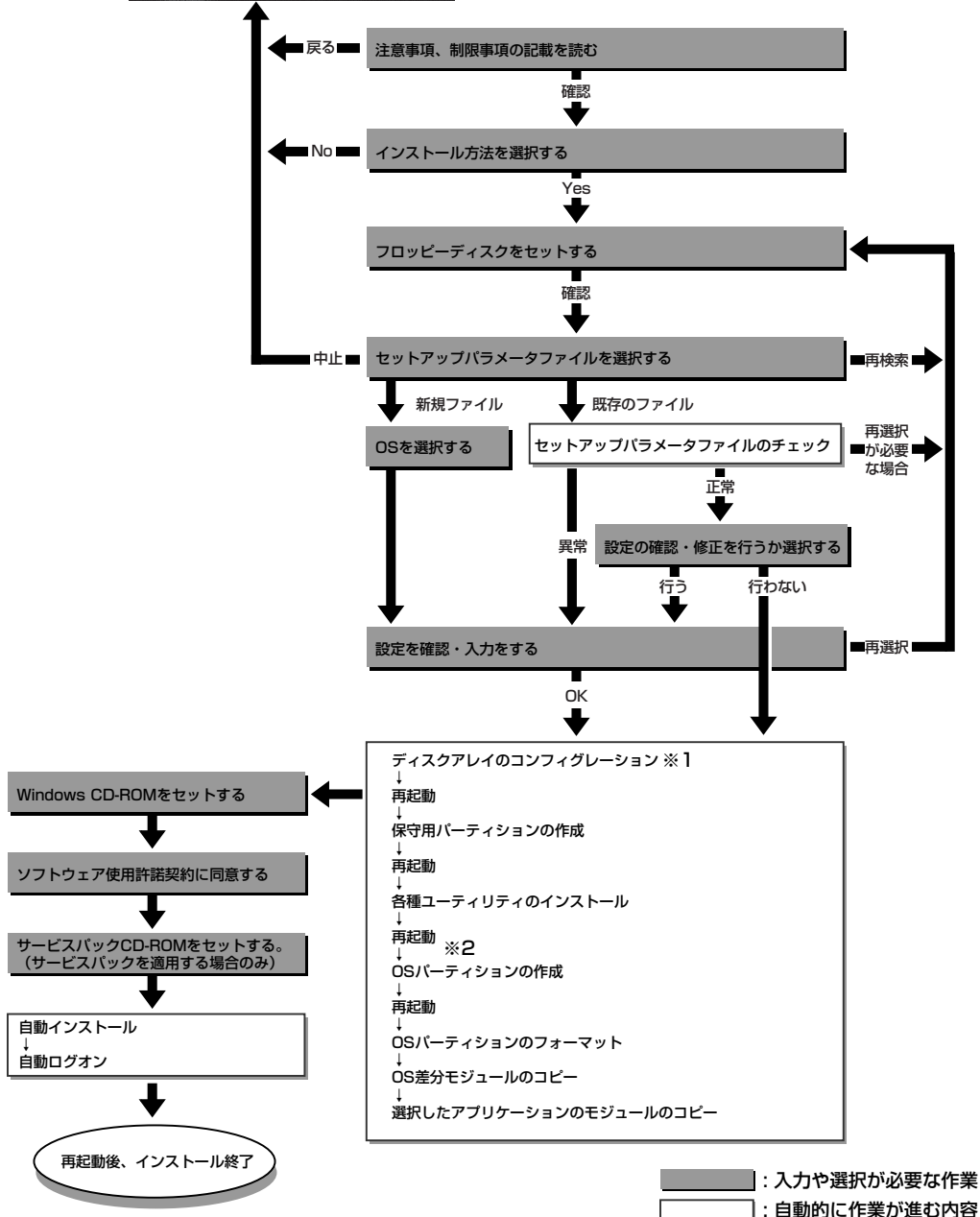
シームレスセットアップでインストールする場合、必要最小限のパーティションサイズを「上記の必要最小限のパーティションサイズ+ 850MB」または「4095MB」のうち、どちらか大きい値に設定してください。

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。
既存のパーティションを残したい場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 Standard Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照して再インストールしてください。
インストレーションサプリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関する注意事項が記載されています。

ディスク構成について(「EISA領域」と表示されている領域について)

ディスク領域に「EISA領域」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。

※1　ディスクミラーリングコントローラが搭載されたシステムで、「RAIDの新規作成」がチェックされている場合のみ実行される。
※2　OSの選択で[その他]を選択したときはここで終了する。

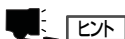
セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。
セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でも1.44MBのDOSフォーマット済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。

重要

- **システムの構成を変更した場合はEXPRESSBUILDERを使用した「システムのアップデート」を行ってください(36ページ参照)。**
- **Windows Server 2003の起動後にネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows Server 2003 Standard Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。**
- **セットアップを開始したら、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。**

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。

   ヒント

   - OSをインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。失敗した場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。
   - 論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」(40ページ)を参照してください。

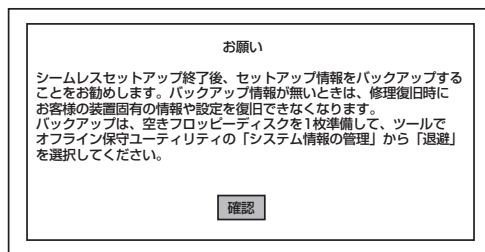
2. 本体のCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。

3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. [シームレスセットアップ]をクリックする。

   「お願い」が表示されます。

5. 記載内容をよく読んでから[確認]をクリックする。

   「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。

お願い

シームレスセットアップ終了後、セットアップ情報をバックアップすることをお勧めします。バックアップ情報が無いときは、修理復旧時にお客様の装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。
バックアップは、空きフロッピーディスクを1枚準備して、ツールでオフライン保守ユーティリティの「システム情報の管理」から「退避」を選択してください。

6. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックする。

- 「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのDOSフォーマット済みフロッピーディスク(ブランクディスク)をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックしてください。
- セットしたセットアップパラメータFDは指示があるまで取り出さないでください。

[設定済みのセットアップパラメータFDをセットした場合]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

① インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。

選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような問題がある場合(たとえばExpressPicnic Ver.4以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクを確認してください。

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

② 確認する場合は [確認]を、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[ｽｷｯﾌﾟ]をクリックする。

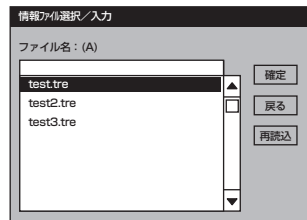
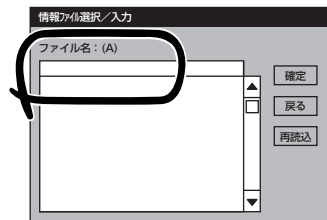
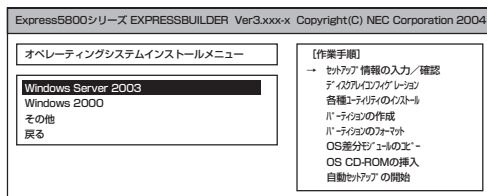
[確認]をクリック→手順7へ進む
[ｽｷｯﾌﾟ]をクリック→手順8へ進む

[ブランクディスクをセットした場合]

① [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分をクリックするか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

② ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー]が表示されます。リストには、この装置がサポートしているOSが表示されます。

③ リストボックスからインストールする[Windows Server 2003]を選択する。

Express5800シリーズ EXPRESSBUILDER Ver3.xxx-x Copyright(C) NEC Corporation 2004

オペレーティングシステムインストールメニュー

Windows Server 2003
Windows 2000
その他
戻る

[作業手順]
→ ｾｯﾄｱｯﾌﾟ情報の入力/確認
ﾃﾞｨｽｸｱﾚｲｺﾝﾌｨｸﾞﾚｰｼｮﾝ
各種ﾕｰﾃｨﾘﾃｨのｲﾝｽﾄｰﾙ
ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝの作成
ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝのﾌｫｰﾏｯﾄ
OS差分ﾓｼﾞｭｰﾙのｺﾋﾟｰ
OS CD-ROMの挿入
自動ｾｯﾄｱｯﾌﾟの開始

7. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

本体にディスクミラーリングコントローラが搭載されている場合は、[アレイディスクの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。

[アレイディスクの設定] ディスクアレイコントローラ

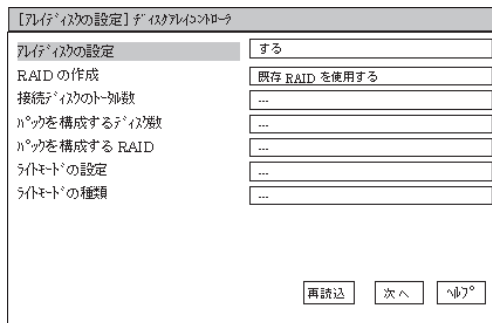
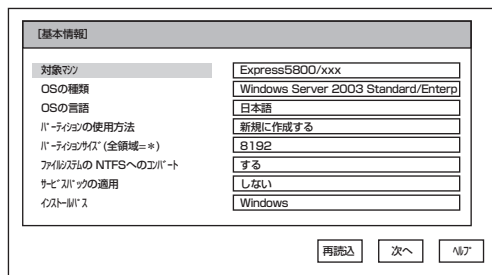
アレイディスクの設定	する
RAIDの作成	既存 RAID を使用する
接続ディスクのトータル数	---
パックを構成するディスク数	---
パックを構成する RAID	---
ライトモードの設定	---
ライトモードの種類	---

再読込　次へ　ヘルプ

次に、[基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［次へ］をクリックしてください（画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。）

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ﾍﾙﾌﾟ]をクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

<表示例>

重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください(20ページ参照)。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション(保守用パーティションを除く)の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション <保守用パーティション>	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
保持	削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(20ページ参照)。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外(保守領域を除く)にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows Server 2003をインストールします。
- シームレスセットアップでは、オンボードのLANポートを含めて4ポートまでしかサポートしていません。4ポートを超える場合は、ネットワークアダプタを外してセットアップを行ってください。
- 英語版OSを使用したい場合は、別途販売店または弊社営業担当にお問い合わせください。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。
- ここでは日本語の入力はできません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ログオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力し、設定してください。ここでは、仮の名前を入力してください。

ヒント

- ［基本情報］画面にある［再読込］をクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。［再読込］は、［基本情報］画面にのみあります。
- ［コンピュータの役割］画面にある［終了］をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

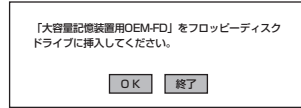
設定を完了すると自動的に再起動します。

8. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

   「大容量記憶装置用OEM-FD」をフロッピーディスクドライブに挿入してください。
   ［ＯＫ］［終了］

   オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。

9. 追加するアプリケーションをインストールする。

   追加するアプリケーションのインストール媒体をCD-ROMまたはフロッピーディスクドライブに挿入してください。
   ［ＯＫ］［終了］

   シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。

10. メッセージに従って「EXPRESSBUILDER」CD-ROMとセットアップパラメータFDをCD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows Server 2003 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

    ［ｿﾌﾄｳｪｱ使用許諾契約］画面が表示されます。

11. よく読んでから、同意する場合は、［同意します］をクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、［同意しません］をクリックするか、<F3>キーを押す。

重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows Server 2003はインストールされません。

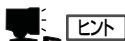
Windows Server 2003と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

12. PROSetをインストールする。

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。
PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、本装置に耐障害性に優れた環境を提供し、本装置とスイッチ間のスループットを向上 させることができます。
このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。
PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

ヒント

PROSetは、「Teaming」の設定に必須です。必ずインストールしてください。

① 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

② エクスプローラを起動する。

<標準のスタートメニューモードの手順>

スタートメニューから[エクスプローラ]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

スタートメニューから[すべてのプログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

③ 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥BC1¥PROSet¥WS03XP32」ディレクトリ内の「PROSet.exe」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード] が起動します。

④ [次へ]をクリックする。

⑤ [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。

⑥ [標準]を選択し、[次へ]をクリックする。

⑦ [インストール]をクリックする。

[InstallShield ウィザードを完了しました] ウィンドウが表示されます。

⑧ [完了]をクリックする。

⑨ システムを再起動する。

13. ネットワークドライバのセットアップをする。

標準装備の2つのネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

① [Intel PROSet]ダイアログボックスを表示する。

<標準のスタートメニューモードの手順>

スタートメニューから[コントロールパネル]→[Intel PROSet]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

(1) スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。

(2) [Intel PROSet]アイコンをダブルクリックする。

② リスト中の[Intel(R) PRO/100 M Network Connention#1]をクリックして選択する。

③ [速度]タブをクリックし、リンク速度とデュプレックス設定をハブの設定と同じ値に設定する。

④ リスト中の[Intel(R) PRO/100 M Network Connention#2]をクリックして選択する。

⑤ [速度]タブをクリックし、リンク速度とデュプレックス設定をハブの設定と同じ値に設定する。

⑥ [Intel PROSet]ダイアログボックスの[適用]をクリックし、[OK]をクリックする。

以上で完了です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

> ヒント
>
> サービスの追加にて、[ネットワークモニタ] を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ] は、[ネットワークモニタ] をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。

14. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、ドライバをインストールする。

15. 31ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。

16. 37ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

グラフィックスアクセラレータドライバ

グラフィックスアクセラレータドライバは自動でインストールされます。手動でのインストールを行う必要はありません。

オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-80/86/111/84/103/113)のうち、N8104-80/86/111を使用する場合はドライバが自動的にインストールされますのでボード添付のドライバを使用しないでください。

N8104-84/103/113を使用する場合は、EXPRESSBUILDER CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

「CD-ROMドライブレター:¥WINNT¥DOTNET¥BC1¥PRO1000¥WS03XP32」

インストール手順が不明な場合は、インストレーションサプリメントガイドのネットワークドライバのインストール手順を参照してください。

N8104-103を使用する場合は、PROSetを起動して[詳細設定]タブより、「TCPセグメンテーションのオフロード」の値を「オフ」にしてください。

アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合、自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。
また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは、複数のアダプタでグループを作り、本体から送信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スプールパケットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。

AFT/ALB機能を使用する場合は以下の手順に従ってセットアップしてください。

1. [コントロールパネル]ダイアログボックスで、[Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。

   [Intel(R) PROSet]ダイアログボックスが表示されます。

2. リスト中の「ドライバ名」にマウスポインタを合わせ、右クリックする。

   メニューが表示されます。

3. [チームに追加]を選択し、[新規チームを作成]をクリックする。

   [チーム化ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

4. 「アダプタ フォルト トレランス」または「アダプティブ ロード バランシング」を選択して[次へ]をクリックする。

5. [次へ]をクリックする。

6. チームにするアダプタをチェックして[次へ]をクリックする。

7. [完了]をクリックする。

   [Intel(R) PROSet]ダイアログボックスに戻ります。

8. [適用]をクリックし、[OK]をクリックする。

9. システムを再起動する。

重要

- AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。
- アダプタ フォルト トレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用可能ですが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一LAN(同一セグメント)上に存在する必要がありますので、カスケード接続にしてください。
- アダプティブ ロード バランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブにのみ接続できます。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本体内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

重要

メモリダンプの注意

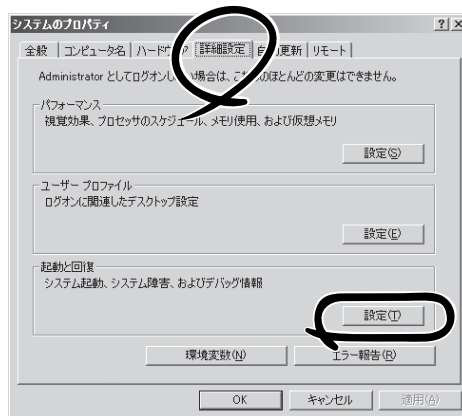
- **メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。**
- **ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。**

次の手順に従って設定します。

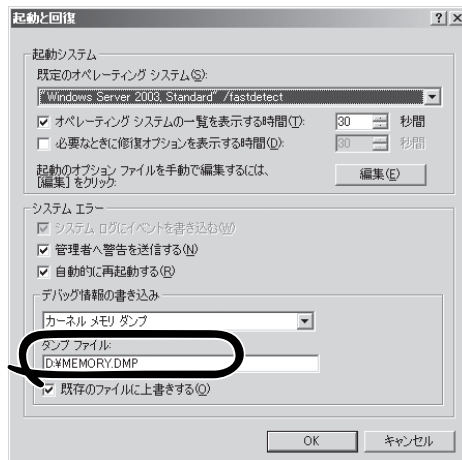
1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。

   [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

2. [詳細設定]タブをクリックする。

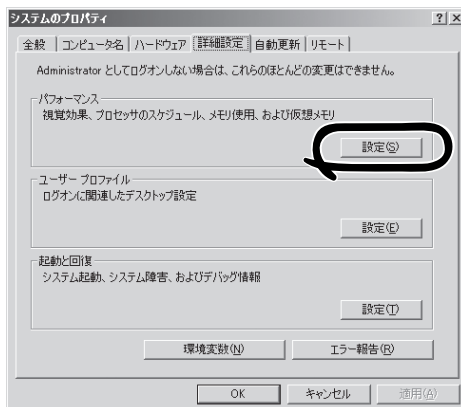
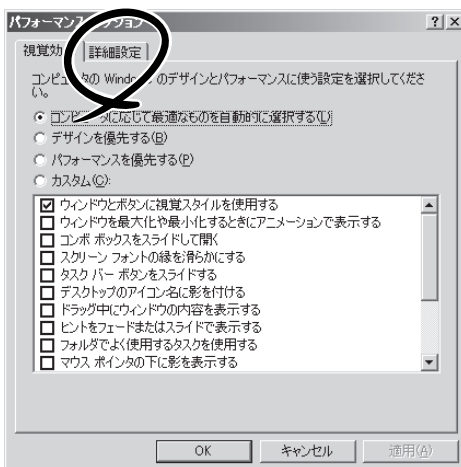
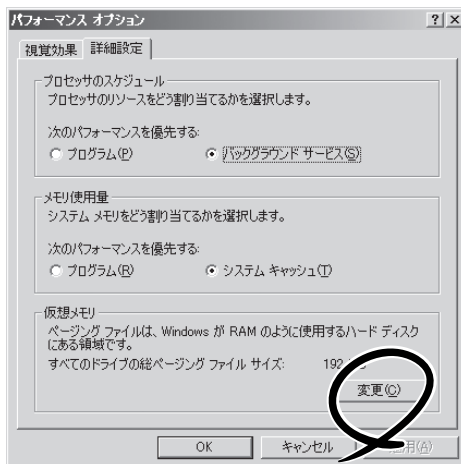
3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。

4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

   <Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

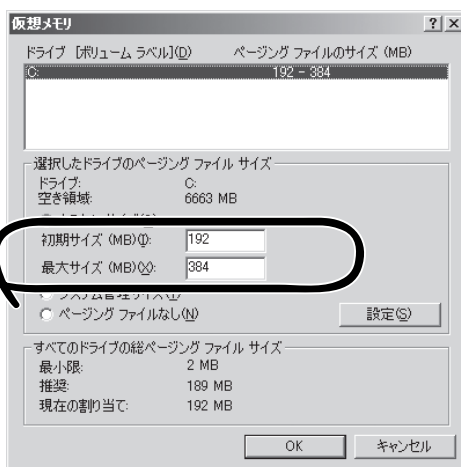
   D:¥MEMORY.DMP

重要

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。

   [パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。

6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。

7. ［仮想メモリ］ボックスの［変更］をクリックする。

8. ［選択したドライブのページングファイルサイズ］ボックスの［初期サイズ］を［推奨］値以上に変更し、［設定］をクリックする。

重要

- **必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。ページングファイルの[初期サイズ]を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報（メモリダンプ）を採取できない場合があります。**
- **「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(20ページ)」を参照してください。**
- **障害発生時に備えて、事前にDUMPスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。**
- **メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。**

9. ［OK］をクリックする。

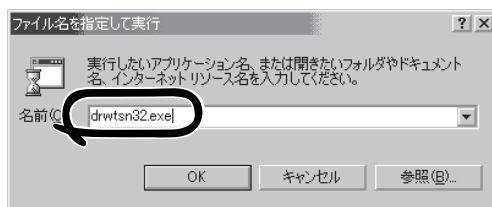
設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

Windowsワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

   [Windowsワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。

3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

   「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

   □ ダンプシンボルテーブル
   □ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
   □ 既存のログファイルに追加
   □ クラッシュダンプファイルの作成

   それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [プログラムの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。

   [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスが表示されます。

3. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。

   [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

4. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]チェックボックスをオンにして[次へ]をクリックする。

5. ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、Windows Server 2003 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットして[OK]をクリックする。

6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。

7. [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスの[閉じる]をクリックする。

8. [コントロールパネル]ダイアログボックスを閉じる。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。

管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、監視用の「ESMPRO/ServerAgent」および管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。ESMPRO/ServerAgentは、シームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。
[スタート]メニューの[プログラム]やコントロールパネルにインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。シームレスセットアップの設定でインストールしなかった場合は、第3編の「ソフトウェア編」を参照して個別にインストールしてください。

ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

システムのアップデート

システムのアップデートは、次のような場合に行います。

- システム構成を変更した場合(本体内蔵オプションの構成を変更した場合など)
- システムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
  (サービスパック関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスクを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。)

管理者権限のあるアカウント(Administratorなど)で、システムにログインした後、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本体のCD-ROMドライブにセットしてください。
表示された画面「マスターコントロールメニュー」の[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックし、メニューから[システムのアップデート]をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。
システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本体のCD-ROMドライブにセットして、再起動する。
   EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
3. [ツール]ー[オフライン保守ユーティリティ]を選ぶ。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。
   以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

応用セットアップ

システムの環境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。

シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラを利用する場合

最新のディスクミラーリングコントローラなど、本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していない大容量記憶装置コントローラが接続されたシステムにおいて、OSの再インストールなどをする場合は、次の手順でセットアップしてください。

- ビルド・トゥ・オーダーにより、OS組み込み出荷された状態からセットアップを開始する場合には、本操作を行う必要はありません。
- シームレスセットアップに対応しているボードの一覧については、次のホームページから参照できます(「サポート・システム支援」から「ExpressPicnic」をクリックしてください)。

  http://www.ace.comp.nec.co.jp/

1. セットアップしようとする大容量記憶装置コントローラの説明書を準備する。

   チェック

   本書の内容と大容量記憶装置コントローラの説明書との内容が異なる場合は、大容量記憶装置コントローラの説明書を優先してください。

2. ディスクミラーリングコントローラの場合は、コントローラの説明書に従ってRAIDの設定を行う。

   RAID設定の不要な大容量記憶装置コントローラの場合は、手順3へ進んでください。

3. EXPRESSBUILDER CD-ROMからシステムを起動させる。

4. シームレスセットアップを実行し、次のような内容に設定されていることを確認する。

   - アレイディスクの設定画面が表示された場合は、[既存のRAIDを使う]をチェックする

     ヒント

     コントローラによっては、設定画面が現れないことがあります。

   - [大容量記憶装置用OEM-FDの適用をする]をチェックする

     ヒント

     このオプションをチェックすることで、フロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

5. シームレスセットアップの途中で[大容量記憶装置用ドライバ]をコピーする。

   大容量記憶装置コントローラに添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。

   「大容量記憶装置用OEM-FD」をフロッピーディスクドライブに挿入してください。

   OK　終了

マニュアルセットアップ

オペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、特殊なインストールに対応する場合、マニュアルセットアップが必要になることがあります。
シームレスセットアップを使わずにWindows Server 2003をインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 Standard Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから、「サポートディスク」を作成しておいてください。

オプションボードを接続する場合は、オプションボードに添付の説明書も併せて参照してください。

サポートディスクとは？

シームレスセットアップを使わずに再セットアップするときの手順「マニュアルセットアップ」では、「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。

「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」には、Windows Server 2003のインストールで必要となる本体標準装備のネットワークやディスプレイ用のドライバなどが含まれています。マニュアルセットアップを始める前に「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を用意してください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。
2. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。
3. 本体のCD-ROMドライブに添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
4. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。
5. ［ツールメニュー］から［サポートディスクの作成］を選択する。
6. ［サポートディスク作成メニュー］から［Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER］を選択する。
7. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。

   「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。

   作成した「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

Windows(Windows 95以降、Windows NT 4.0以降)が動作するコンピュータをお持ちの場合は、Windows上でEXPRESSBUILDER CD-ROMをセットすると起動する「マスターコントロールメニュー」から Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを作成することもできます。

論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順

ここでは論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順とドライブ文字の修正手順について説明します。

再セットアップをはじめる前に

万一の場合に備えて再セットアップを開始する前に、必ずデータのバックアップを行ってください。

再セットアップ手順

1. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを開始する。

2. 次のメッセージが表示されたら、OSをセットアップしたいバージョンを選択する。

次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。 上下の方向キーを使って、一覧からパーティションを選択してください。

   重要

   システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字はセットアップ完了後は修正できません。この画面で正しいドライブ文字が割り当てられていることを確認してからセットアップを続行してください。

3. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを続行する。

4. セットアップ完了後、再セットアップ前とドライブ文字が異なる場合があります。ドライブ文字の修正が必要な場合は「ドライブ文字の修正手順」に従ってドライブ文字を変更する。

ドライブ文字の修正手順

以下の手順では、システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は変更できませんので、ご注意ください。

1. ［スタート］メニューの［マイコンピュータ］を右クリックして［管理］を選択し、［コンピュータの管理］を起動する。

2. 左側のウィンドウの中から、［ディスクの管理］を選択する。

3. ドライブ文字を変更したいボリュームを選択して右クリックを行い、［ドライブ文字とパスの変更］を選択する。

4. ［変更］を選択する。

5. ［次のドライブ文字を割り当てる］を選択し、割り当てたいドライブ文字を選択する。

6. ［OK］を選択する。

7. 以下の確認メッセージが表示されたら、［はい］を選択する。

ボリュームのドライブ文字を変更すると、プログラムが動作しないことがありません。このドライブ文字を変更しますか？

8. ［コンピュータの管理］を終了する。

Windows 2000のセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了してから、Windows 2000やシステムのセットアップをします。再インストールの際にも参照してください。

カスタムインストールモデルのセットアップ

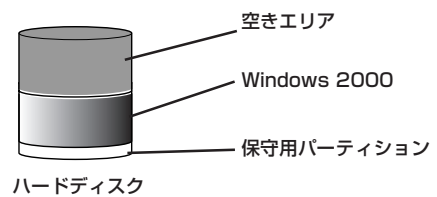
「ビルド・トゥ・オーダー」にて「カスタムインストール」を指定して購入された本体のハードディスクは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、本装置が提供するソフトウェアがすべてインストールされています。

ここで説明する手順は、「カスタムインストール」を指定して購入された製品で初めて電源をONにするときのセットアップの方法について説明しています。再セットアップをする場合や、その他の出荷状態のセットアップをする場合は、「シームレスセットアップ」を参照してください。

セットアップをはじめる前に　- 購入時の状態について -

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本体のハードウェア構成（ハードディスクのパーティションサイズも含む）やハードディスクにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー（ビルド・トゥ・オーダー）によって異なります。

右図は、ハードディスクのパーティション構成について図解しています。

セットアップの手順

次の手順で本体を起動して、セットアップをします。

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにし、そのままWindowsを起動する。

   ［Windows 2000 Server セットアップ］画面が表示されます。

2. ［次へ］をクリックする。

   ［使用許諾契約］画面が表示されます。

3. ［同意します］にチェックをして、［次へ］をクリックする。

   以降、使用者名やプロダクトキーなどの設定画面が次々と表示されます。

4. 画面の指示に従って必要な設定をする。

   セットアップの終了を知らせる画面が表示されます。

5. ［完了］をクリックする。

   システムが再起動します。

6. 再起動後、システムにログオンする。

7. 53〜54ページの手順13〜15を参照して、PROSet Ⅱのインストールとネットワークドライバの詳細設定、グラフィックスアクセラレータのセットアップをする。

8. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、インストレーションサプリメントガイドを参照してドライバをインストールする。

9. 55ページを参照して障害処理のためのセットアップをする。

10. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。

    インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

    - ESMPRO/ServerAgent
    - エクスプレス通報サービス*
    - FastCheck*

    上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

    重要

    カスタムセットアップで出荷された場合、インストールされているサービスパックのバージョンと、本体に添付されているサービスパックのバージョンが異なる場合があります。

    本体にインストールされているサービスパック以降のバージョンが添付されている場合は、本体に添付の「Windows 2000 RURx対応(Service Pack x)インストール手順書」を参照してサービスパックのインストールを行ってください。サービスパック情報に関しては、下記サイトより詳細情報を確認してください。

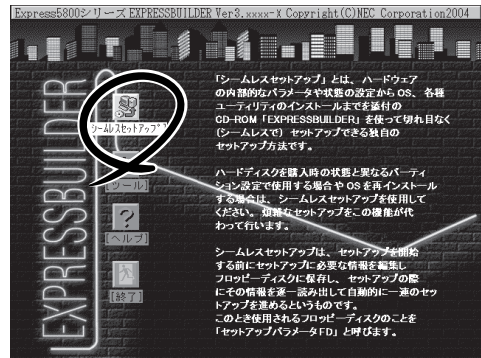
    ［8番街］　http://nec8.com/

11. 63ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でカスタムインストールで購入された製品での初めてのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「シームレスセットアップ」を使ってください。

シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってセットアップをします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS（Windows 2000）、各種ユーティリティのインストールまでを添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って切れ目なく（シームレスで）セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。ハードディスクを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。

シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップについては、64ページの「応用セットアップ」で説明しています。

- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

  シームレスセットアップは、この情報を基にしてすべてのセットアップを自動で行います。この間は、本装置のそばにいて設定の状況を確認する必要はありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態に本装置をセットアップすることができます。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクをご利用ください。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。

  事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておくと、シームレスセットアップの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます。（セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正することもできます）。Expressサーバの他にWindows 95/98/Me、Windows NT 3.51以降、Windows XP/2000またはWindows Server 2003で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします。

  ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、171ページで説明しています。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

本装置がサポートしているOSはMicrosoft® Windows® 2000 Server 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)です。その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

BIOSの設定について

Windows 2000をインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。BIOSの設定には、Windows 2000から採用された新しい機能(プラグ・アンド・プレイやUSBインタフェースへの対応など)に関する設定項目があります。126ページを参照して設定してください。

Windows 2000について

Windows 2000は、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。

重要

- **インストールを始める前にオプションの増設や本体のセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。**
- **NECが提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。**
- **シームレスセットアップを完了した後に57ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。**

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイルシステムが正しく変換されない場合があります。ファイルシステムが正しく変換されなかった場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

ハードディスクの接続について

OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。また、論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」(65ページ)を参照してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ

インストールに必要なサイズ	= 1000MB
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 12MB

重要

- **上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。**
- **1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズx 1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。**
- **搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズは、「2048MB+12MB」以上です。**
- **その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするパーティションサイズを追加してください。**

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述の計算方法から

1000MB + (512MB × 1.5) + (512MB + 12MB) = 2292MB

となります。

シームレスセットアップでインストールする場合、必要最小限のパーティションサイズは以下のように計算してください。

- Windows 2000サービスパックを適用しない場合
  「前述の必要最小限のパーティションサイズ」もしくは「4095MB」のうち、どちらか大きい方
- Windows 2000サービスパックを適用する場合
  「前述の必要最小限のパーティションサイズ + 850MB」もしくは「4095MB」のうち、どちらか大きい方

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。
既存のパーティションを残したい場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows 2000 Serverインストレーションサプリメントガイド」を参照して再インストールしてください。
インストレーションサプリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関する注意事項が記載されています。

ディスク構成について(「MAINTE_P」と表示されている領域について)

ディスク領域に「MAINTE_P」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。

サービスパックの適用について

Express5800シリーズでは、サービスパックを適用することができます。本体に添付されているサービスパック以降のサービスパックを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

[8番街] http://nec8.com/

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。

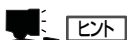
※1　ディスクミラーリングコントローラが搭載されたシステムで、「RAIDの新規作成」がチェックされている場合のみ実行される。
※2　OSの選択で[その他]を選択したときはここで終了する。

セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。
セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でも1.44MBのDOSフォーマット済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。

重要

- **システムの構成を変更した場合はEXPRESSBUILDERを使用した「システムのアップデート」を行ってください(62ページ参照)。**
- **Windows 2000の起動後にグラフィックスアクセラレータドライバやネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows 2000 Serverインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。**

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。

   ヒント

   - OSをインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗しることがあります。失敗した場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。
   - OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。
   - 論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」(66ページ)を参照してください。

2. 本体のCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。

3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. [シームレスセットアップ]をクリックする。

   「お願い」が表示されれます。

5. 記載内容をよく読んでから[確認]をクリックする。

   「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。

お願い

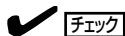
シームレスセットアップ終了後、セットアップ情報をバックアップすることをお勧めします。バックアップ情報が無いときは、修理復旧時にお客様の装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。
バックアップは、空きフロッピーディスクを1枚準備して、ツールでオフライン保守ユーティリティの「システム情報の管理」から「退避」を選択してください。

6. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックする。

- 「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのDOSフォーマット済みフロッピーディスク(ブランクディスク)をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックしてください。
- セットしたセットアップパラメータFDは指示があるまで取り出さないでください。

[設定済みのセットアップパラメータFDをセットした場合]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

① インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。

選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような問題がある場合(たとえばExpressPicnic Ver.3以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクを確認してください。

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

② 確認する場合は [確認]を、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[ｽｷｯﾌﾟ]をクリックする。

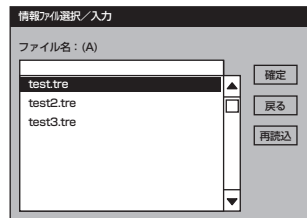
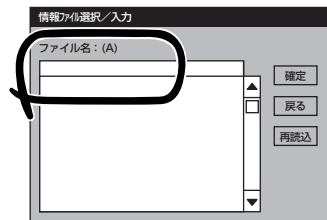
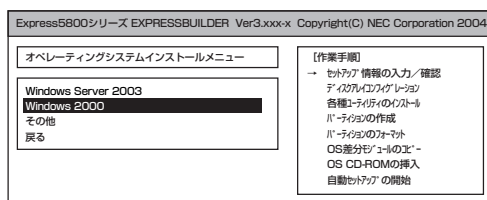
[確認]をクリック→手順7へ進む
[ｽｷｯﾌﾟ]をクリック→手順8へ進む

[ブランクディスクをセットした場合]

① [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分をクリックするか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

② ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー]が表示されます。リストには、この装置がサポートしているOSが表示されます。

③ リストボックスからインストールする[Windows 2000]を選択する。

7. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

本体にディスクミラーリングコントローラが搭載されている場合は、[アレイディスクの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。

[ｱﾚｲﾃﾞｨｽｸの設定] ﾃﾞｨｽｸｱﾚｲｺﾝﾄﾛｰﾗ

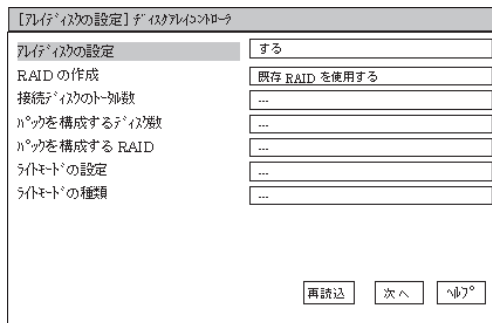
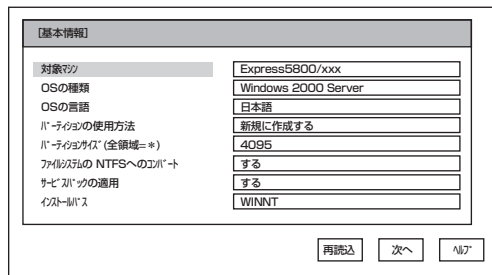
ｱﾚｲﾃﾞｨｽｸの設定	する
RAIDの作成	既存RAIDを使用する
接続ﾃﾞｨｽｸのﾄｰﾀﾙ数	---
ﾊﾟｯｸを構成するﾃﾞｨｽｸ数	---
ﾊﾟｯｸを構成するRAID	---
ﾗｲﾄﾓｰﾄﾞの設定	---
ﾗｲﾄﾓｰﾄﾞの種類	---

再読込　次へ　ﾍﾙﾌﾟ

次に、[基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［次へ］をクリックしてください（画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。）

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ﾍﾙﾌﾟ]をクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

<表示例>

重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください(46ページ参照)。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション(保守用パーティションを除く)の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション <保守用パーティション>	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
保持	削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(46ページ参照)。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設定値は実領域以上または120GB以上の値を指定しないでください。
- 「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外(保守領域を除く)にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows 2000をインストールします。
- シームレスセットアップでは、オンボードのLANポートを含めて4ポートまでしかサポートしていません。4ポートを超える場合は、ネットワークアダプタを外してセットアップを行ってください。
- 実領域が120GB以上になる場合は、パーティションサイズに「全領域」を指定しないでください。
- 英語版OSを使用する場合は、別途販売店または弊社営業担当にお問い合わせください。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。

<次ページへ続く>

重要

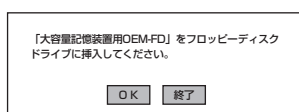
- **前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。**
- **ここでは日本語の入力はできません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ログオン後に入力画面が表示されます。その時に再入力し、設定してください。ここでは、仮の名前を入力してください。**

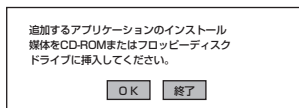
ヒント

- [基本情報]画面にある[再読込]をクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込]は、[基本情報]画面にのみあります。
- [コンピュータの役割]画面にある[終了]をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

8. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

   オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。

9. 追加するアプリケーションをインストールする。

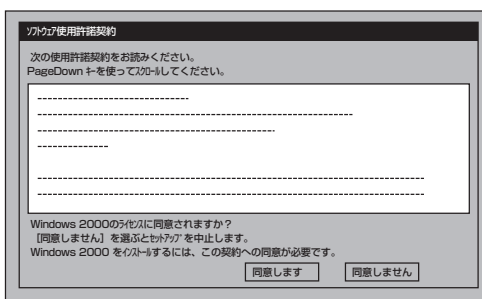
   シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。

追加するアプリケーションのインストール
媒体をCD-ROMまたはフロッピーディスク
ドライブに挿入してください。
OK 終了

10. メッセージに従って「EXPRESSBUILDER」CD-ROMとセットアップパラメータFDをCD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

    [ｿﾌﾄｳｪｱ使用許諾契約]画面が表示されます。

11. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]をクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、[同意しません]をクリックするか、<F3>キーを押す。

    重要

    同意しないと、セットアップは終了し、Windows 2000はインストールされません。

12. 基本情報で「サービスパックの適用」を[する]にした場合は、次の操作をする。

① メッセージに従ってセットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す。

② メッセージに従ってWindows 2000 サービスパック1以降のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

Windows 2000と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

13. PROSetⅡをインストールする。

PROSetⅡは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。

PROSetⅡを使用することにより、以下のことが行えます。

－ アダプタ詳細情報の確認
－ ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
－ Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバースイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合にPROSetⅡが必要になります。
PROSetⅡをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

① 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

② スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

③ 「<ＣＤ-ＲＯＭのドライブレター>:￥ＷＩＮＮＴ￥Ｗ２Ｋ￥ＰＣ６２Ｃ￥ＨＤ１¥WINDOWS¥PROSet2¥IA32」ディレクトリ内の「PROSET.MSI」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSetⅡ InstallShield Wizard]が起動します。

④ [Next]をクリックする。

⑤ [I accept the terms in the license agreement]を選択し、[Next]をクリックする。

⑥ [Typical]を選択し[Next]をクリックする。

⑦ [Install]をクリックする。

「デジタル署名が見つかりません」というメッセージが表示された場合は、[はい]を選択して、インストールを続けてください。

[InstallShield Wizard Complated]ウィンドウが表示されます。

⑧ [Finish]をクリックする。

⑨ システムを再起動する。

14. ネットワークドライバの詳細設定をする。

標準装備の2つのネットワークアダプタは、自動的にインストールされますが、それぞれ転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

① スタートメニューから[設定]をポイントし[コントロールパネル]をクリックする。

② [コントロールパネル]ウィンドウで、[Intel(R)PROSetⅡ]アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R)PROSetⅡ]ダイアログボックスが表示されます。

③ リスト中の「Intel(R) PRO/100 M Network Connection」にマウスカーソルを合わせる。

④ [Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]の項でHUBの設定値と同じ値に設定する。

⑤ 続けて、リスト中の「Intel(R) PRO/100 M Network Connection#2」にマウスカーソルを合わせる。

⑥ [Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]の項でHUBの設定値と同じ値に設定する。

⑦ [Intel(R)PROSetⅡ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

ヒント

サービスの追加で[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。

15. 標準で装備されているグラフィックスアクセラレータ用ドライバをアップデートする。

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は、そのボードに添付されている説明書に従ってドライバをインストールしてください。

① 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

② スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

③ 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥VIDEO¥W2K」ディレクトリ内の「SETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。

④ メッセージに従ってインストール作業を進める。

「デジタル署名が見つかりません」というメッセージが表示された場合は、[はい]を選択して、インストールを続けてください。

⑤ CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってシステムを再起動する。

16. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。

17. 55ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。

18. 61ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-80/86/111/84/103/113)を使用する場合は、EXPRESSBUILDERのドライバとボード添付のドライバのバージョンを確認してください。

<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥PC62C¥FD1¥WINDOWS¥DRIVERS¥IA32¥e1000nt5.sys

<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥PC62C¥FD1¥WINDOWS¥DRIVERS¥IA32¥e100bnt5.sys

ボードに添付のドライバが古い場合は、インストレーションサプリメントガイドのネットワークドライバの再インストール手順を参考にし、EXPRESSBUILDER CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

N8104-80/86/111/84/103/113のドライバ

<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥PC62C¥FD1

アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合、自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。
また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは、複数のアダプタでグループを作り、本体から送信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スプールパケットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。

AFT/ALB機能を使用する場合は以下の手順に従ってセットアップしてください。

重要

- **AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。**
- **Adapter Fault Tolerance(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用可能ですが、異なるHUBに接続する場合は、すべて同一LAN(同一セグメント)上に存在する必要がありますので、カスケード接続にしてください。**
- **Adaptive Load Balancing(ALB)を使用する場合は、スイッチング・ハブにのみ接続できます。**

1. [コントロールパネル]ダイアログボックスで、[Intel(R) PROSetⅡ]アイコンをダブルクリックする。

   [Intel(R) PROSetⅡ]ダイアログボックスが表示されます。

2. リスト中の「Intel(R) PRO/100 M Network Connection」にマウスポインタを合わせ、右クリックする。

   メニューが表示されます。

3. ［Add to Team>］を選択し、［Create New Team...］をクリックする。

   ［Teaming Wizard］ダイアログボックスが表示されます。

4. 「Adapter Fault Tolerance」または「Adaptive Load Balancing」を選択して［次へ］をクリックする。

5. ［次へ］をクリックする。

6. チームにするアダプタをチェックして［次へ］をクリックする。

7. ［完了］をクリックする。

   ［Intel(R) PROSet Ⅱ］ダイアログボックスに戻ります。

8. ［OK］をクリックする。

9. システムを再起動する。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本体内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

重要

メモリダンプの注意

- **メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。**
- **ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。**

次の手順に従って設定します。

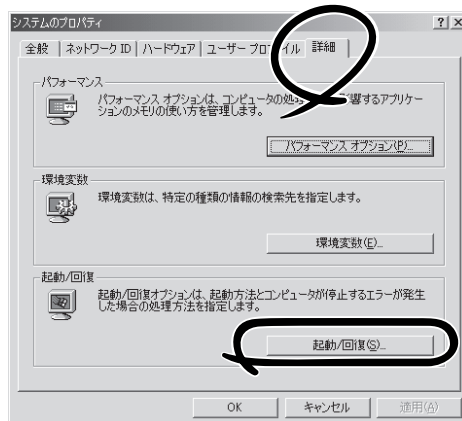
1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

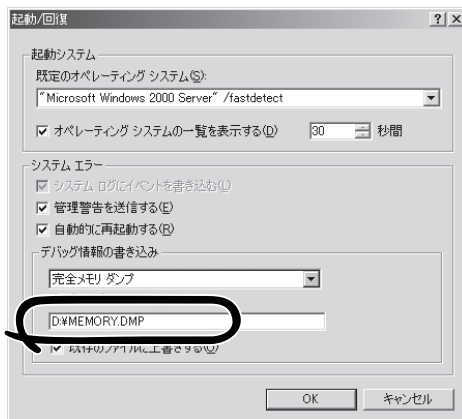
2. [システム]アイコンをダブルクリックする。

   [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

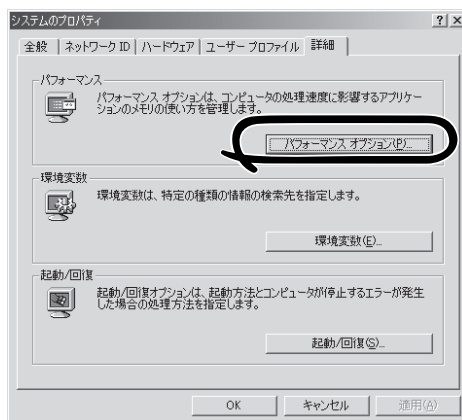
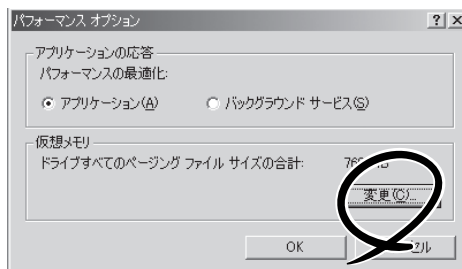
3. [詳細]タブをクリックする。

4. [起動/回復]をクリックする。

5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK]をクリックする。

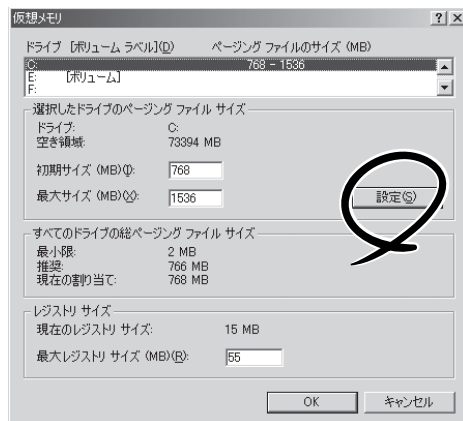
<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

重要

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリを増設した場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

6. [パフォーマンスオプション]をクリックする。

7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。

8. ［選択したドライブのページングファイルサイズ］ボックスの［初期サイズ］を［推奨］値以上に変更し、［設定］をクリックする。

重要

- **必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。ページングファイルの［初期サイズ］を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報（メモリダンプ）を採取できない場合があります。**
- **「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて（46ページ）」を参照してください。**
- **障害発生時に備えて、事前にDUMPスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。**
- **メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。**

9. ［OK］をクリックする。

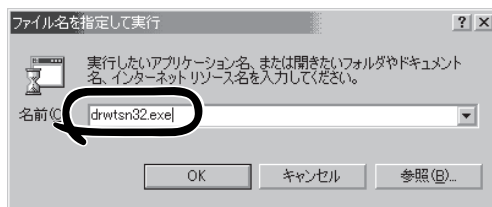
   設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

Windows 2000ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

   [Windows 2000 ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。

3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

   「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

ヒント

「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

   □ ダンプシンボルテーブル
   □ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
   □ 既存のログファイルに追加
   □ クラッシュダンプファイルの作成

   それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。

   [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスが表示されます。

3. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。

   [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

4. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]チェックボックスをオンにして[次へ]をクリックする。

5. ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットして[OK]をクリックする。

6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。

7. [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスの[閉じる]をクリックする。

8. [コントロールパネル]ダイアログボックスを閉じる。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。

管理ユーティリティのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMには、監視用の「ESMPRO/ServerAgent」および管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。ESMPRO/ServerAgentは、シームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。
[スタート]メニューの[プログラム]やコントロールパネルにインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。シームレスセットアップの設定でインストールしなかった場合は、第3編の「ソフトウェア編」を参照して個別にインストールしてください。

ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

システムのアップデート　- サービスパックの適用 -

システムのアップデートは、次のような場合に行います。

- システム構成を変更した場合(本体内蔵オプションの構成を変更した場合など)
- システムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
  (サービスパック関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスクを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。)

管理者権限のあるアカウント(Administratorなど)で、システムにログインした後、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本体のCD-ROMドライブにセットしてください。
表示された画面「マスターコントロールメニュー」の[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックし、メニューから[システムのアップデート]をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、サービスパックを適用してください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。
システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。

2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本体のCD-ROMドライブにセットして、再起動する。

   EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

3. [ツール]ー[オフライン保守ユーティリティ]を選ぶ。

4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。

   以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

応用セットアップ

システムの環境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。

シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラを利用する場合

最新のディスクミラーリングコントローラなど、本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していない大容量記憶装置コントローラが接続されたシステムにおいて、OSの再インストールなどをする場合は、次の手順でセットアップしてください。

- ビルド・トゥ・オーダーにより、OS組み込み出荷された状態からセットアップを開始する場合には、本操作を行う必要はありません。
- シームレスセットアップに対応しているボードの一覧については、次のホームページから参照できます(「サポート・システム支援」から「ExpressPicnic」をクリックしてください)。

  http://www.ace.comp.nec.co.jp/

1. セットアップしようとする大容量記憶装置コントローラの説明書を準備する。

   チェック

   本書の内容と大容量記憶装置コントローラの説明書との内容が異なる場合は、大容量記憶装置コントローラの説明書を優先してください。

2. ディスクミラーリングコントローラの場合は、コントローラの説明書に従ってRAIDの設定を行う。

   RAID設定の不要な大容量記憶装置コントローラの場合は、手順3へ進んでください。

3. EXPRESSBUILDER CD-ROMからシステムを起動させる。

4. シームレスセットアップを実行し、次のような内容に設定されていることを確認する。

   - アレイディスクの設定画面が表示された場合は、[既存のRAIDを使う]をチェックする

     ヒント

     コントローラによっては、設定画面が現れないことがあります。

   - [大容量記憶装置用OEM-FDの適用をする]をチェックする

     ヒント

     このオプションをチェックすることで、フロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

5. シームレスセットアップの途中で[大容量記憶装置用ドライバ]をコピーする。

   大容量記憶装置コントローラに添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。

マニュアルセットアップ

オペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、特殊なインストールに対応する場合、マニュアルセットアップが必要になることがあります。

シームレスセットアップを使わずにWindows 2000をインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows 2000 Serverインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから、各OS用の「サポートディスク」を作成しておいてください。

オプションボードを接続する場合は、オプションボードに添付の説明書も併せて参照してください。

サポートディスクとは？

シームレスセットアップを使わずに再セットアップするときの手順「マニュアルセットアップ」では、「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。

「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」には、Windows 2000のインストールで必要となる本体標準装備のネットワークやディスプレイ用のドライバなどが含まれています。マニュアルセットアップを始める前に「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を用意してください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。
2. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。
3. 本体のCD-ROMドライブに添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
4. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONして本体を再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。
5. [ツールメニュー]から[サポートディスクの作成]を選択する。
6. [サポートディスク作成メニュー]から[Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER]を選択する。
7. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。

   「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。

   作成した「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

Windows(Windows 95以降、Windows NT 4.0以降)が動作するコンピュータをお持ちの場合は、Windows上でEXPRESSBUILDER CD-ROMをセットすると起動する「マスターコントロールメニュー」から Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを作成することもできます。

論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順

ここでは論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順とドライブ文字の修正手順について説明します。

再セットアップをはじめる前に

万一の場合に備えて再セットアップを開始する前に、必ずデータのバックアップを行ってください。

再セットアップ手順

1. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを開始する。

2. 次のメッセージが表示されたら、OSをセットアップしたいバージョンを選択する。

   次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の
   領域が表示されています。

   上下の方向キーを使って、一覧からパーティションを選択してください。

   重要

   システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字はセットアップ完了後は修正できません。この画面で正しいドライブ文字が割り当てられていることを確認してからセットアップを続行してください。

3. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを続行する。

4. セットアップ完了後、再セットアップ前とドライブ文字が異なる場合があります。ドライブ文字の修正が必要な場合は「ドライブ文字の修正手順」に従ってドライブ文字を変更する。

ドライブ文字の修正手順

以下の手順では、システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は変更できませんので、ご注意ください。

1. ［スタート］メニューの［マイコンピュータ］を右クリックして［管理］を選択し、［コンピュータの管理］を起動する。

2. 左側のウィンドウの中から、［ディスクの管理］を選択する。

3. ドライブ文字を変更したいボリュームを選択して右クリックを行い、［ドライブ文字とパスの変更］を選択する。

4. ［変更］を選択する。

5. ［次のドライブ文字を割り当てる］を選択し、割り当てたいドライブ文字を選択する。

6. ［OK］を選択する。

7. 以下の確認メッセージが表示されたら、［はい］を選択する。

ボリュームのドライブ文字を変更すると、プログラムが動作しないことがあります。このドライブ文字を変更しますか？

8. ［コンピュータの管理］を終了する。